

平成 31 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	6	講習名	【選択】「宮島学」ノススメ				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
西本 寮子 大知 徳子 秋山 伸隆	広島キャンパス	6 時間	小学校教諭・中学校教諭 高等学校教諭	30 人	講義	記述	
開催日	8 月 8 日（木）		予備日	8 月 22 日（木）			
【到達目標】 厳島神社・宮島に関する多面的な研究成果を理解し、授業に活用できる。							
【講習の概要】 県立広島大学宮島学センターが積み重ねてきた世界遺産厳島神社・宮島に関する多面的な研究成果と廿日市市内の小・中学校との連携活動事例を紹介しながら、社会科・地歴科に限定されない、宮島をフィールドとする児童・生徒の主体的な学習活動を引き出すための工夫について考える。							
【講習の内容】 講座 1：宮島学入門—平家納経の見返絵に隠された人々の思い（担当：西本 寮子） 国宝・平家納経からは、奉納当時の文化水準の高さと厳島神社に寄せる平家の人々の深い思いを知ることができる。本講義は、「宮島学入門」として、見返絵に隠された文字の読み解きから始め、納経を奉納した人々、宝物を守り伝えてきた人々の思いに迫ってみたい。 講座 2：神仏分離と宮島（担当：大知 徳子） 厳島神社は、平安時代後期に平清盛や平家一門の熱心な信仰を受けて、最初の繁栄を迎えた。平家滅亡後もゆるやかに形を変えながら、神事・祭礼を執り行ってきた。しかし、現在に至るまでの間、厳島神社は何度か大きな変革の時を迎えた。本講座は、明治時代初めの神仏分離が厳島神社と宮島に与えた影響について明らかにする。 講座 3：宮島における戦争と平和（担当：秋山 伸隆） 宮島は歴史的に見ると、瀬戸内海の海上交通の要衝であり、戦国時代には厳島合戦（1555 年）の戦場となった。明治時代には、陸海軍の重要拠点である広島と呉を防衛するため、宮島に 3ヶ所の砲台が建設された。1945 年 9 月、原爆投下直後の広島を襲った枕崎台風は、宮島・厳島神社に大きな被害をもたらした。本講座は、あまり知られていない宮島と「戦争」との関わりについて考える。 講座 4：地域遺産としての厳島神社（担当：秋山 伸隆・大知 徳子） 厳島神社は平清盛、毛利元就といった時の権力者の信仰や保護だけによって守られてきたわけではない。大鳥居や社殿を造営するための材木・檜皮などの材料は、広島県内の各地域から運ばれ、多くの農民・職人・商人などが協力した。管絃祭には江波や阿賀の漁民が漕舟を出し、広島城下の町人たちも御供船で参加した。本講座は、厳島神社が県内各地域とのつながりの中で守られてきたことを明らかにし、世界遺産厳島神社の次世代への継承と教育の役割について考える。							
【備考】 学校でお使いの教科書や厳島神社・宮島に関する参考文献などをご持参ください。 試験の際には、持参された教科書・参考文献と配付した講義資料の持ち込みを認めます。							